

2014年12月22日/千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館大ホール

千葉大学アカデミック・リンク・シンポジウム

「つながる学び：アカデミック・リンクのこれまでとこれから」

参加者アンケート

当日参加者数： 152 名      アンケート提出数： 54 件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

### 1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・アカデミック・リンクプロジェクトの具体的なデータ（数字）を示していたので良かったと思います。
- ・千葉大の進もうとしている方向がよく分かりました。
- ・図書館で大学院生がTAとしてPEER-TO-PEER LEARNINGを実践しているのが印象的でした。
- ・「学習している所を見て、見られる」→これが興味深いです。
- ・教材作成等、先生方のニーズに応えるという視点が、自館では欠けていたように思います。先生方にお世話になるのだから、図書館からもアクション起こさなければ。
- ・アカデミック・リンクのこれまでの具体的な成果および大学としての決意（のようなもの）
- ・アクティブ・ラーニングにおける“場”の機能、そこへの学生の関与や成長
- ・アクティブ・ラーニングの本質について改めて考えさせられた。
- ・ALCでの取り組み全般について詳細に知ることができた。
- ・多角的な実践や、それぞれに様々な評価をされていて、とても勉強になりました。
- ・場、コンテンツ、人が有機的、効果的に結びついていること、これを実現するためには、相当の覚悟と力が必要であったのだろうと、関わってこられた方々に敬意を表します。
- ・利用行動の質的量的調査を継続的に行い、成績との関連分析、興味深かったです。
- ・アクティブ・ラーニング 昔からあった。
- ・情報利用行動によると、グループ学習ができる場として、利用する層が高学年であること。
- ・デジタル教材作成支援などがわかりやすかった。
- ・利用分析や定点観測に関する発表が面白かったです。
- ・「アクティブ・ラーニング」といわれてもピンとこないことも多いのですが、実状を調査・把握することで、具体的な問題や改善点も見えてくるのだとよくわかりました。
- ・大学のアクティブ・ラーニングの運営には、その支援者のあり方がかなり重要であるということがわかった。
- ・図書館の空間をつくっただけでなく、学生の利用について調査をしていることが、今後を考える上で大切なことだと思いました。（プロジェクト報告）
- ・澤村氏のお話で、教員だけに任せておくのは負担が大きいとあらためて気づかされました。
- ・MOOCに興味があり、大学におけるオンライン授業などが（デジタルコンテンツ、教材作成）具体的にどうつくられているのかわかって参考になりました。
- ・これまでの活動がよくわかった。
- ・アカデミック・リンクの現状、現在の課題が明らかになってきているということ。
- ・PDCA サイクルの中でフォーカス・グループ・インタビュー、フォト・ボイス・インタビューの手法は興味深く、今後、当館でも取り組んでみたい。

次頁に続く

- ・学生の学習行動に関する調査など大変興味深かったです。
- ・千葉大学がどんな大学をめざしているのかわかりました。日本の高等教育の流れと同じなのか、どうなのか、「考える学生」が育つように期待しています。
- ・多くのプロジェクトがアカデミック・リンク・センターの運営と同時に立ち上げられており、いろいろの角度から調査・分析・改善されていることに驚きました。
- ・ディスカッションにはファシリテータが重要ということ。
- ・ALCの利用でいろんな可能性が広がるということ。
- ・学業成績不振に悩む学生にアルサを紹介しようと思いました。
- ・全学的取り組みが必要であること。
- ・アカデミック・リンク・センターの活用方法を見させて頂き、驚きの連続でした。学生の学修時間や図書館の活用方法など、学生の声や実態が聞けたのは収穫でした。
- ・環境で行動が変化する学生の実態について、またそのための取り組みについて理解しました。
- ・図書館で対話ができる作業スペースがあるということが、非常に興味深く、今後見学してみようと思いました。
- ・学長様の挨拶の中で、亥鼻、松戸にも広げていくという話があったが、いつごろ、どのような形を考えておられるのか、次の機会にでも概要を紹介いただけると幸いです。
- ・多様な学習スタイルに対応した空間が求められるとともに、その空間を活用する時間も求められるということ。
- ・岡本先生の「学習空間の利用分析」は非常に興味深く、今後別の大学にラーニングコモンズを提案するにあたり、ヒントとなると思われた。
- ・スペース・人・サービス・時間と学生の目線・満足度
- ・学生の利用実態がよくわかった。多様なスタイルに対応する必要がある。
- ・大学図書館が今までなし得なかった「本来の図書館の在り方」を実現されたことに本当に驚きました。
- ・様々な側面から、学生の学習状況等調査をしていることに驚きました。調査結果には意外なものも多く興味深かったです。
- ・ラーニング・コモンズで過ごすための「時間」の確保が必要という提言が参考になった。
- ・学生の自主的な学びのために、学内外の教員等が協同して研究していること。
- ・ALSA、あかりんセミナーなど運用面がすばらしいと思った。
- ・導入の効果把握が、しっかりとした目的に合わせて作っており参考になった。
- ・アカデミック・リンク・センターの建物が新しくなったことは知っていたが、空間・人的配置について、目的を掲げて進化していることがわかりました。
- ・ALSAのしくみがよくわかった。対応者、相談者、双方により効果が表れると感じました。
- ・空間の利用の工夫だけでなく、学習のフォローも積極的に行っているんだと改めて知りました。
- ・パワーポイントが素晴らしいですね。お隣の竹内先生が堂々となさっているように見えました。
- ・アカデミック・リンクの概要で現状分析など、様々な情報をお聞きできて大変有意義でした。
- ・「教材作成の場として」というのが目からウロコでした。反転学習や、ゲーミフィケーションをしようとする、たしかにそれら教材を作る場が必要になってきます。学生のための場ではなく、教員のための場でもあるというのが新しい発見です。
- ・定量的定性的にデータを示すことにより、効果等を明示できる、していくことが必要であると実感することができた。

- ・実物を見ることができてよかったです。想像よりすばらしかったです。
- ・ラーニング・コモンズを図書館の1つの中核において、いろいろな側面から熱心に展開されているのはよく分かった。

## 2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・教員だけでなく、職員や大学院生の声も聞いてみたかったです。
- ・教材等コンテンツ作成の今後の展望。
- ・実際に使っている先生の生の声があると、もっとよかったのかと思います。一般からの質問にもあった“評価”に対する答えにもなったのでは？
- ・文脈は大きく異なると思いますが、大学の研究力強化とどう関連させるとよいのか（よくないのか）
- ・クォーター制導入なども含めたとき、学生の学び方、行動はさらに大きく変わるのか？
- ・コンテンツが活用出来る環境＝議論の収束とはどういう事か？
- ・どうやって、継続的、発展的につなげていくか。
- ・情報利用行動によると“グループ学習ができる場として、利用する層が高学年であること”、とあったが、低学年への関わりはどのように考えているか。
- ・アンケート調査とインタビュー調査の相互関係がわかりにくかった。これらの調査から得られた情報がどのように使われていくのかわかりにくかった。
- ・図書館での滞在日数や、訪問日数を考える際、千葉大学さんの学生の生活状況（通学時間・通勤方法・履修状況・出席状況など）が気になりました。
- ・支援する大学院生(SA or TA)のモチベーションの保ち方を知りたいです。また彼らへの支援料（アルバイト料）の度合いにも興味があります。
- ・シンポジウム開催対象と、どこかに絞って意識されていたか。
- ・近隣の区市町村などの自治体の教育や企画への案内等の有無。
- ・各プロジェクトの成果に対する評価（誰が、どのようにやる予定なのか）
- ・ALSA で、学習内容以前に対話能力支援が必要な傾向はないのだろうか。
- ・これまではよくわかりましたが、これからは？でした。これからについてもっと聞かしていただきたい。もしかして渡邊先生のお話がこれから？ということでしょうか。
- ・図書館のプレゼンスを高めるための方策。未だに多くの教育施設においては、図書館・館員への評価、期待は薄いため。（特に私の所属大学では。）
- ・グラフで説明があったが、その結果、考察までを分かりやすくまとめて表記していただけると理解しやすいかも。
- ・9つある学部教育はどのように変わるのか。大学4年間で何を学ぶのか。学生の20年間の自己形成をふまえて大学で何ができるか。何をするのか。主体者として学生は何を考えているのでしょうか。
- ・ALC や ALC のイベント「知らない」学生が多いというデータが驚きでした。学生に対しての広報、周知方法、さまざまな取り組みをされているのに・・・と「知らない」というより、「知ろうとしていない」学生に疑問をもちました。
- ・机のランダム配置が着席率に影響するのかは、再度、来年度同様の時期に順番を入れ替えて行ってみてはどうか。
- ・時間に対する考え方
- ・他の国立大学、特に旧帝大の図書館を尻目に「アカデミック・リンク」を実現できた過程を是非知りたいです。

- ・図書館職員など運営側の苦勞などを聞いてみたかった。
- ・これだけの規模の導入（費用）をどう実現できたのか？
- ・数々のデータが興味深かったです。ただし、読み方が難しいものもあり、考察も、レジュメにあればよりよかったですと思います。Web からダウンロードし、熟読しようと思います。
- ・3月のセミナーも参加しました。3月での時点から12月までの間にアカデミック・リンク内でどのような改善が行われたか(PDCA)がよく分かりませんでした。
- ・また、授業での連動、千葉大学でのALの授業（反転授業など）がどの程度行われているのかなと気になりました。
- ・どのような組織で連携、協働しているのか。図書館+教員のみですべて企画・実施しているのか。
- ・お伺いできる話ではないかもしれませんが、アカデミック・リンク・センターの組織の大きさ（大学内での位置づけ）運営について少し知りたい。
- ・本日の参加者の所属の割合（他大学 関係者？）
- ・本日のプロジェクト報告者の領域（自分で調べればよいのですが、不勉強ですみません。）
- ・目指すべき学生像を明確にするとして、実際の学生の現状把握はどのようにやっていらっしゃるのか。（入試の段階ですでに設定済みということか。）

### 3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・定期的にこのようなシンポジウムを開いていただければと思います。
- ・MOOCなどのオンライン教育について
- ・アカデミック・リンクに勤務する職員
- ・効果の実証（評価）方法など。
- ・アクティブ・ラーニングのトピックとなるようなスタイルの提案など。
- ・アクティブ・ラーニングを授業として取り入れる例など。
- ・ICTの新しい使い方、教育面での使い方。
- ・アクティブ・ラーニングを大学で突然行うのは慣れていない学生には大変なことだと思います。最近是小・中・高でも考えたり話し合ったりする授業が多いと聞きますが、実際の小～高の教員らの方から現状を伺って、ブリッジングについて考える機会があればと思います。
- ・本日参加して下さった、川嶋先生、渡邊先生の内容をもっと深く聞きたかった。
- ・公立図書館において、課題解決をテーマとした取り組みが行われており、地域によって、多様化、先進化している。人の成長に関わっていく施設として、「図書館」のとらえ直しが行われている。館種、地域によって様々なアイデアが試されている時代なので、より幅広い視点で講師を選んでほしい。また海外からも（可能なら）講師を呼んでほしい。
- ・大学図書館にたくわえられている財産を使いこなすという観点は弱いと思われます。大学で働く人と学生が共同して何を作り出していくのか、誰のために大学の役割をむけさせるのか、**違うのでは？**
- ・CIREのイベントでCISGの学生と留学生が年に2回ユニバーサルフェスティバルという文化紹介イベントをしています。その簡易版をプレゼンスペースで英語でやられたらいかがでしょうか。English Houseとコラボするのもよいと思います。各部活やサークルの活動報告などもよいのでは。
- ・学習支援の具体的事例
- ・もう少し竹内先生のお話が聞きたかったです。

- ・アカデミック・リンク開始後、千葉大の学生がどう変わったか、外部の評価を聞く機会があれば。
- ・具体的な空間設備
- ・学内の講座「公共図書館サービス」があるようですが、大学図書館と公共図書館の提携の可能性など。
- ・物理学問題集等電子教材作成の事例など自作教材については、話をお伺いできたが、市販の教科書の電子化（電子教科書）授業での使用について見解があればお聞きしたい。
- ・学生からの生の声を聞く場面があってもよいのでは。
- ・あかりんアワーの特集セミナー。学部ごとに特集すると興味深いのでは。
- ・コンテンツの幅・種類などが爆発的に増加するなかで、いかに整理し、活用をうながしていくか、また学習に活用できるよう提案していくか、様々なお話を伺いたと思います。
- ・各校のラーニングコモンズを比較したイベントがあると、大変勉強になります。空間・人的支援、目的などが各校においてどうちがうのか、ということをお伺いたと思います。
- ・アカデミック・リンクと授業の関係
- ・アカデミック・リンクの運用改善内容/具体的な学生への効果
- ・継続的に開いていただければまた来る機会もあるかと思えます。

#### 4. 本日のシンポジウムの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・いろいろと貴重なご意見を伺いました。
- ・大学で働く人がこのような努力をされていることはわかりましたので、少しでも関わっていけたらと思います。参加型の企画を期待します。
- ・千葉大学のアクティブ・ラーニングが千葉大生の学習により効果的なのはわかりましたが、研究成果としてどう結果が出ているのか？以前と比べて千葉大生の学力は上がっているのか？表面的ではない深部の検証が必要であると思いました。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ひとつひとつの取り組みが体制からクオリティからしっかりていねいに考えられ、実を結んでいることすばらしいと思います。
- ・川嶋先生のセミナーがすばらしかった。教育から学習へのパラダイムシフトなど良く理解できました。学習のための時間の確保も課題だという点は新鮮でした。
- ・意見を交換することで、様々な方面から見たアクティブ・ラーニングが見えた。問題点を導きだし、解決していくことを繰り返すことが大切。そういう意味でも、本日の報告・シンポジウムは有効だと思えました。
- ・空間を重視されているとのこと、建築や人間工学（行動学）との研究もありますよね。例えば空席率など、パーソナルゾーンを意識した什器やレイアウトで実験してみたり、カフェのように荷物カゴを置いてみるなどしたらどうなるか、おもしろそうです。
- ・地域との連携などは、テーマにはいっていないと思われそうですが、（民間との連携はすでにあるのかもしれませんが）ALSA-LSで研修してみたいと思ったりしました。
- ・大学において、教育学部における教育カリキュラムがかなり重要となるのかな？
- ・パネルディスカッションの参加の先生方の意見（教育について）の生ディスカッションが聞いてみたかったです。お互いのプレゼンに対して意見のぶつかり合いを聞きたいです。
- ・一日全て使って開催してほしい。興味深い発表がほとんどなので、時間を使ってていねいにやってほしかった。

次頁に続く

- ・澤村先生のプレゼンは学ぶべきところがたくさんありました。学外（というか大学関係者以外）の方の視点は新鮮で刺激的なので、今後もそういう方のお話を聞けたらと思います。
- ・常に目標とすべきものとして、アカデミック・リンクはあります。
- ・様々な内容のお話を聞くことができ、大変勉強になりました。
- ・アカデミック・リンクに関わる多様な内容（実績、分析、評価、コンテンツのこと、アクティブ・ラーニングのあり方・・・）を教えていただき頭の中がいっぱいになりました。これから頭の中を整理していきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・授業の内容ではなく、空間設計を通して、学習効率をあげるという発想が自分にはなかったもので、自分の身の回りでも少しの改善で作業効率があがるということに気づくよい機会となりました。
- ・澤村氏のプレゼンが視点が新鮮でとても有意義だった。
- ・少し時間が窮屈だった。
- ・アカデミック・リンクを利用している学生の声を活かし、より良い提案ができるように努めていきたいです。
- ・大変参考になりました。
- ・「図書館による教育改革」にここまで意欲的に取り組まれ、実現しているということに深く感銘いたしました。心から敬意を表します。
- ・とても参考になりました。施設等のハード面はもちろん、活用方法等のソフト面にとっても興味をもちました。
- ・学生はあまり来ていないようでしたが、姉川先生もお話されていたように、今後授業などでも活用したら良いと思いました。アカデミック・リンクすばらしいと思います。
- ・図書館内でディスカッション可能スペースがある事を初めて知りました。非常に有効的な空間活用で合理性も高いと感じます。附属図書館（亥鼻、松戸）でも可能になるとよりよいと思いました。
- ・娘を、見学のために、アカデミック・リンクに入れてあげたかったんですが、入り口で、職員（本人）以外にはだめだと断られました。将来の学生に対してもいい機会を与えて頂けるとありがたいです。
- ・授業との関連では、12月25日（木）が日程上ベストではないでしょうか。
- ・とても学術的なシンポジウムであると感じました。アカデミック・リンクにおいては、研究されていて、空間デザインの視点からも大変ためになりました。熟読して是非参考にさせていただきたいと感じました。
- ・勉強になりました。とても興味深い内容でした。
- ・本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。

5. 次の（１）、（２）について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 学外から参加 41名      b. 学内からの参加 11名 回答なし 2名
- (2) a. 学生 0名 b. 教員 3名   c. 大学職員(図書館職員を除く) 11名   d. 図書館職員 18名  
e. 出版関係 2名   f. その他 16名 回答なし 4名

6. シンポジウムを何で知りましたか？

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) 6名   b. Web(図書館) 1名   c. Web(千葉大学) 3名  
d. 図書館内電子掲示 0名   e. ポスター 3名   f. センターからのメール 18名  
g. Facebook・Twitter 4名   h. その他(国大図協、カレントアウェアネス、知人の紹介など) 21名 回答なし 2名 ※複数回答あり

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナー・シンポジウムの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。（既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です）

お名前：( )

ご所属：( )

電子メールアドレス：  申込時に申請したもの  それ以外( )

ご協力ありがとうございました。

※26名が新規に継続的な情報提供を希望